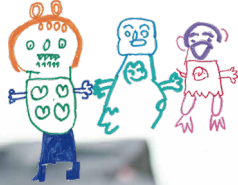




AJU ラルシュかなの家便り



AJU
ラルシュかなの家便り
No.299
2023 冬号
2023/12/12



現在、アシスタント募集しております。
ラルシュの理念に興味のある方いましたらQRコードの
「ラルシュかなの家ホームページ」をどうぞご覧ください。



発行：社会福祉法人 ラルシュかなの家
〒421-2114 静岡市葵区安倍口新田65-5
TEL：054-206-0830 FAX：054-294-8070
E-mail：larchekana@s9.dion.ne.jp HP：https://larchejapankana.localinfo.jp/
ブログ：larchekananoie.blog.fc2.com



振り込み口座：00820-4-153325 ラルシュかなの家 (ご寄付用の振込)



2019年にかなの家まつりが行われた後、コロナ禍でしばらくまつりを開催できない状況が続きました。今年の11月10日(土)、4年ぶりにかなの家まつりが復活し、なかまやご家族、アシスタント、お客さんが会話に花を咲かせ、歌や踊りを楽しむことができました。

今回の出し物は、恒例のカナロック、寸劇「ひとりの小さな手」、ズンバの3つでした。

カナロックは、初めに江川さんが「いいじゃないの幸せならば」(佐良直美)、かつみさんが「君といつまでも」(加山雄三)、穂純さんが「若い力」(国体の歌)を歌い、今の若い人にはわからない、昭和の雰囲気が始まりました。くりに氷川きよし、竹内まりや、斉藤和義、ジャスティン・ビーバーと様々な楽曲を、なかまやアシスタントが歌い踊りました。私はなかまの仁さん、元アシスタントの水野さんと一緒に、サザンオールスターズの「涙のキッス」をギターを弾きながら歌いました。

カナロックの前半と後半の間には、寸劇「ひとりの小さな手」が披露されました。「ひとりの小さな手」という讚美歌(元はフォークソング)に合わせながら、なかまとアシスタントが劇を演じました。なかまやアシスタントと一緒にサンドイッチをつくらしたり、アシスタントが糸電話でなかまたちの声を聴いたり、なかまたちの喧嘩を勝実さんが止めたり……すまいの日常生活に基づいた寸劇でした。その中でも、「ひとつの主のからだ えだえだ違うけど それでもみんながひとつに結ばれて 強く生きる」という歌詞を歌いながら、大きな木(主なる神様の象徴)の絵の枝に皆でペーパーフラワーをつける場面は印象的でした。最後に皆で『天使にラブソングを2』の名曲「Oh, Happy Day」を歌い、寸劇は幕を閉じました。

寸劇を担当したアシスタントの一人と、かなの家まつりの前に、ある聖書の一節を共有しました。旧約聖書「詩編」の「あなたはわたしの嘆きを踊りに変え／粗布を脱がせ、喜びを帯としてくださいました」という言葉です。

最後にズンバという南米で始まったスタイルの踊りを皆で踊りました。ズンバの曲とともに野村さんの車椅子を押しながら、「嘆きを踊りに変え」という一節を思い出していました。

旧約の時代から人々は踊っていた。踊りを通じて、苦しみや悲しみを乗り越える力を与えられた。柴田さんは斉藤和義の「ずっと好きだったんだぜ」をベースで弾きましたが、我々人類はずっと踊ってきたんだぜ……。

そんな気がした、かなの家まつりでした。

ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

平石 裕哉



吾郎さんに 会いに行こう！



コロナも少しずつ落ち着きを見せ始めた頃「吾郎さんに会いに行こう」となかまが言い出しました。かなの家に来てまだ一年だった私には吾郎さんが誰なのかわからずにいました。

話を聞くと、神父様だと！神父様を「さん」で呼ぶなんて考えたこともなく、驚きと同時にそんな風に呼べるのはなかまにとって神父様としてだけではなく、友のような存在として深いつながりがあるんだろうと思いました。早速藤沢教会におられる吾郎神父様、河野神父様に連絡をしたところ快く受け入れてくださり、せっけん販売もさせていただくことになりました。

出発当日までの間もなかまは吾郎さんを喜ばせたくて大張り切りでした。待ちに待った当日、ご病気で吾郎さんが倒れられてからなかなか会えずとても心配していたなかまの顔は一瞬にしてうれしさに溢れました。

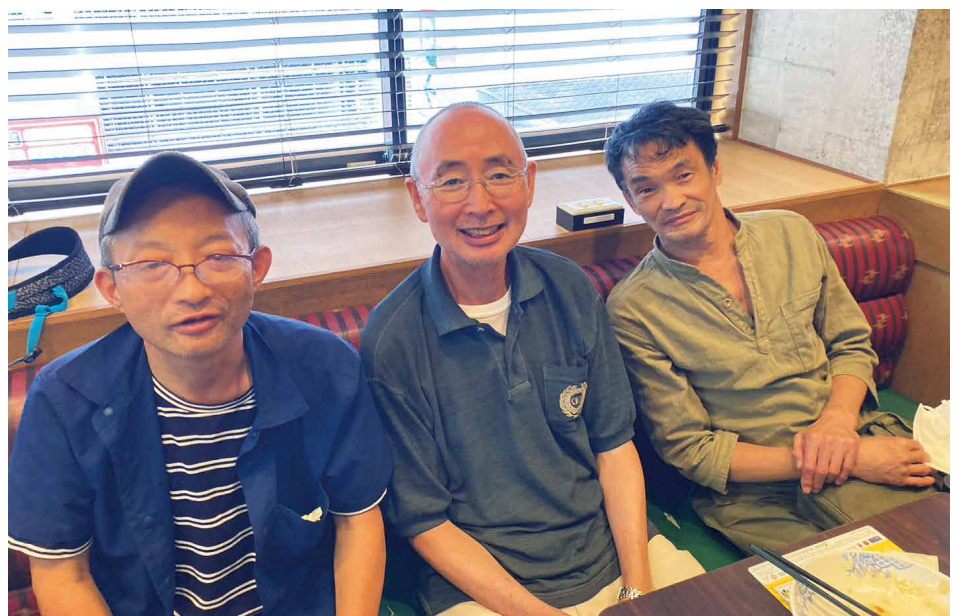
久しく会う友との再会そのものでした。藤沢教会の皆様は、せっけん販売のために準備して下さり、あたたかく声をかけてくださりたくさんのせっけんを買っていただきました。

なかまの吾郎さんに会いに行きたいという強い思い、祈りは互いを思い合い、助け合い、笑い合える優しく温かな時につながっていきました。帰路につく車の中、みなで楽しかったねと語り合いました。

藤沢教会の皆様、温かく迎え入れてくださり、このような機会をありがとうございました。心から感謝いたします。

越 聖美

藤沢教会で迎えられる



当たり前じゃない時間

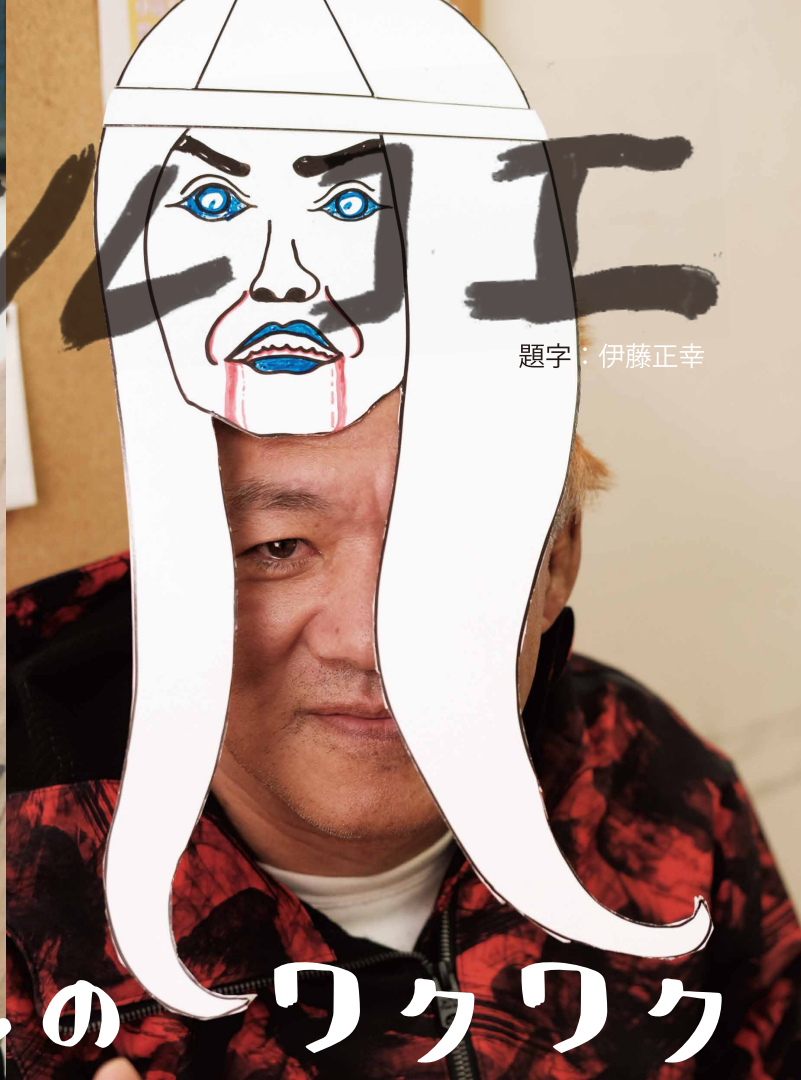
杉山 晴子

久々の外泊旅行をグループホームのなかまとしてきました。思いをはせながら長野県上田市に向かいました。元コミュニティーリーダーの西田正志さんに会い行って、上田教会様で石鹸販売の計画です。上田城で待ち合わせして観光後は隠れ家的な創作和食小料理屋へ。

釜めしを待っている間は、ノンアルコールで乾杯、お互いにノンアルコールを継ぎ合いながらワイワイ昔話をして楽しい宴です。勝実さんがノンアルコールを注文するとは!と少し驚きましたが、慣れた手酌で唐揚げをつまみにして満足な表情。一方で田中さんは、丁寧に作る大将の釜めしにじらされ、私たちは今にも厨房に駆け込みそうな田中さんをなだめつつ、一品ずつテーブルに届くたびにお店の奥さんにリアクションをして笑顔だけで会話が成立。小野田さんがノンアルコール片手にその姿を見て喜んでいるし、江川さんと今林さんと西田さんと雑談しながら時にはきつい冗談を飛ばして大笑い。

「これだよな～」と心の中で呟きながら、久しぶりの感覚を味わっていました。何気ない日常の時間をなかまと一緒に過ごす。当たり前な時間が、当たり前じゃなかったりもします。「時間」という貴重な財産をお互いに使ってその同じ空間にいる事で創られている共同体験は、一度しか同じことが起こせません。その場所で一緒にいてくれたことに感謝です。



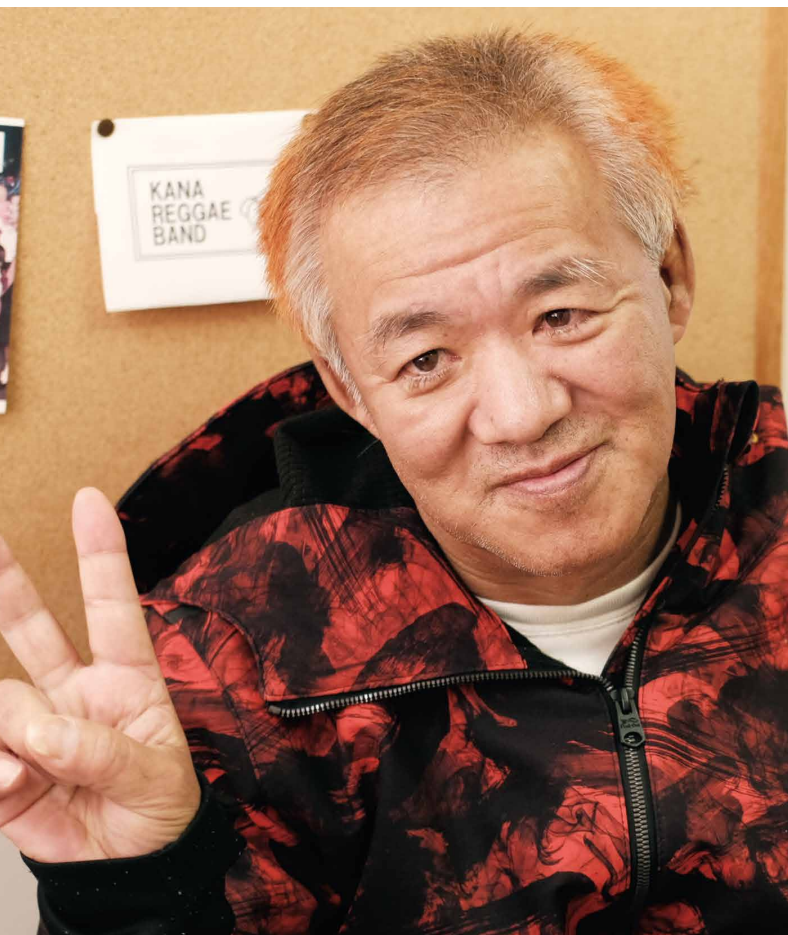


題字：伊藤正幸

野村安一さんのワクワク

安一さんはお面が好きです。それも、ちょっと不気味で面白いお面が好きです。彼の部屋には、そんなお面のコレクションが沢山飾られています。そして、安一さんの意欲は午後の創作活動に向かっています。先日四年ぶりに開催されたかなの家祭りのために、当日に使うお面を沢山作りました。作ったお面は日本の幽霊「お岩さん」、海外の有名な怪物「フランケンシュタイン」そしてウルトラセブンなども作りました。最近制作中の最新作はウルトラマンの敵役の「バルタン星人」です。お面からさらに発展もしています。

彼の目的の一つは「人を喜ばせたい」という気持ちです。お面作りでは、色塗りを担当し、色塗りをしているときの



安一さんはとても真剣です。隅々まで丁寧に塗ります。そして、少しずつ出来上がってくると、突然大きな声で「ワッハッハッハ」と笑い出します。一見驚きますが、その笑いは「ワクワク」からくる笑いだと思えば、とても嬉しくなります。そして、各部位が出来上がるとすぐに見せたくなり、いろいろなアシスタントに見せに行きます。と言うより驚かしに行きます。それもまた、見守りながら、裏で自分は微笑んでいます。安一さんは一日の中でも体調が大きく変わります。調子の良いときばかりではありません。彼のワクワクする顔が好きで、これからもそんな彼がワクワクすることを見つけ、サポートしていけたらと思います。

ぱぴよん

「ラルシュかなの家 農村舞台」プロジェクト ご支援のお願い

ラルシュかなの家の歴史は入所施設を出て、廃品回収の仕事をして自立することから始まりました。

もう45年前となります。かなの家を作ってきたなかまは60歳代に入りました。廃品回収や養鶏、石鹸作りなど、生活を続けるために一生懸命に働いてくれた「なかま」たちは高齢のため仕事ができなくなり、少しずつ生活介護(重い障がいのある方への支援サービス)へと移っています。

日中の場である「まどい作業所」の生活介護のスペースが狭くなってきていること、入浴介助のできる設備が必要なことが大きな課題です。

現在、まどい作業所の隣の土地を購入する計画が進んでいます。(令和5年度購入予定)その土地に生活介護の建物を作り、高齢のなかまや生活介護を利用するなかまが過ごせるよう準備をしています。



ラルシュには「知的障がいのある人のギフト(賜物)を伝える」という使命があります。

なかまとアシスタントが創る表現をたくさんのお客さまに観ていただく舞台として、なかまのシンプルな生きる喜びや、そのままの自分でいられる相互関係を祝う場として、リトリートやテゼの集まり、ヨガ、坐禅体験など「いのち」の意味を皆で考え祈る場としても考えております。

- ・ 高齢のなかまがいられる場
- ・ なかまのギフトを伝える場
- ・ ラルシュのこころ(スピリチュアリティ)をシェアする場

そんな思いが詰まったラルシュかなの家「農村舞台」を令和6年度に建設したく存じます。

皆様のご支援をどうぞよろしく願いいたします。

コミュニティリーダー 佐藤 言

【会計報告】

2022年度寄附収入 4,500,490円 (2022年4月1日～2023年3月31日)

2023年度寄附収入 1,171,760円 (2023年4月1日～2023年5月26日現在)

(お願い)この「かなの家便り」に付いている払込票は、石けん代金振込み用には使用することが出来ません。石けんご注文の際に、代金振込み用の払込票をお付けしますので、そちらをお使い頂ければ幸いです。 ※皆様からお寄せいただくご寄付等は、税法上寄付控除の対象となります。

2023年5月29日からご寄付下さった方・献品して下さい下さった方

(2023年5月29日～2023年12月1日現在。敬称を略させていただきました)

(個人の方) 村上淑子、久我純彦、平野昭子、阿部泰久、鈴木登喜子、武井陽一、高野啓子、三重野きの江、小島敏夫、海野和子、小嶋宏子、中谷功、宮崎光、梁熙梅、島しづ子、前田トシ子、武岡憲子、内海真、藤沢薫、植山利彦、井田洋子、伊藤海子、田野明子、横谷智子、中島教子、西本裕・洋子、小岩井正子、井川伸子、岡本みどり、岡橋慶治、吉田公美子、浅野一恵、坂本由子、森山薫、本村八百重、川谷すず子、竹原創一、斎藤齊、菅純恵、永岡啓・飾、芳賀直哉、瀧浪詩月江、増田とき枝、後藤頌子、濱本義信・緑、田辺ヒナ子、福土久美子、戸館亜輝男、小坂一代、山田哲史、鈴木直子、寺澤陽子、生子典男、鈴木あき子、匿名 9

(団体) カトリックイエズス会SJハウス、エーザイ株式会社、株式会社サクラクレパス

(献品) 近藤久美子(果実)、雙葉母の会、今林良、佐藤照信(菓子)、稲川勢津子、NPOたんぼぼ(菓子)、寺澤節雄(果実)、インガ、赤石真奈美、平野清美

皆さま、本当にありがとうございました。

漏れのある方、匿名希望の方がおられましたら、お手数ですがどうぞご連絡下さいませ。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

(福)ラルシュかなの家は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

